

於テ本件交渉ノ事実漏洩シタルニ由リ寧ロ急速ニ之ヲ公表スルヲ得策トシ此ノ際直ニ本件公文書ノ交換ヲ実行セムトスルモノナリ本件交渉ノ成立ニ至ル迄ノ經過等ニ付テハ議案ニ参照トシテ添付シタル外務省作成ノ説明書ヲ併セテ参看セラレムコトヲ請フ

按スルニ石井ランシング交換公文ハ上掲支那ニ関スル九国条約ノ条項及対支新借款団ノ組織ニ関スル列国ノ保証アルカ為ニ果シテ不用ト為リタルヤ否ヤ疑念ナキニアラスト雖米國政府カ切ニ其廃棄ヲ希望スルニ於テハ帝國政府モ亦之ニ応諾スルコト蓋シ已ムヲ得サル所ナルヘシト認ム即チ本案ハ此儘之ヲ可決セラレ然ルヘシト思料ス

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

大正十二年四月十日
樞密院書記官長 二上兵治
樞密院議長子爵 清浦奎吾殿

(欄外註記)

四月十一日樞密院本會議ニテ報告セラレ全院可決セラレタリ

三七六 四月十二日 (着) 在米國埴原大使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

石井・ランシング協定廃棄ニ関スル交換公文
ノ字句修正ニ関シ説明ノ件

第二三六号

貴電第一八二号ニ関シ

understanding ハ本使ト國務長官トノ間ニハ当初ヨリ複數ニテ話ヲ為シ居リ電信ニモ同様複數ト為シアル積リナリシ次第ニ付右様御承知アリタシ

(欄外註記)

原電再調シタルニ兩方トモ單數トナリ居レリ

事項九 日米仲裁裁判条約期限延長協約關係

三七七 二月二十七日 (着) 在米國埴原大使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

米國ノ國際司法裁判所ヘノ参加ニ関スル同國
内ノ動靜報告ノ件

第一三〇号

二月二十四日大統領ハ上院ニ教書ヲ送り國際司法裁判所ニ正式参加ノ為メ右裁判所設置議定書ノ承認ヲ求メ最後ニ右ハ國際的友誼ニ貢獻セントスル吾人ノ自覺ヲ強メ且世界ヲシテ國際問題ノ安定ニ力ヲ致サントスル吾人ノ態度ヲ認識セシムル所以ナリト結ベリ尚同時ニ参加理由ヲ詳述セル大統領宛國務長官書簡ヲ廻付シタルガ其ノ内参加条件トシテ一、参加ニ依リ米國ガ連盟ト何等カノ法律的關係ヲ生ジ若クハ連盟規約所定ノ義務ヲ負ハスモノト解釈セラレザル可キコト
二、裁判官及副裁判官ノ選任補欠ニ関スル連盟理事会及總會ニ於ケル一切ノ手續ニ関シ米國ハ連盟加入國ト同等タル可シ

九 日米仲裁裁判条約期限延長協約關係 三七七

三、米國ハ議會ノ隨時決定スベキ適當ナル裁判所費用ヲ負擔スベキコト
四、議定書付屬裁判所規則ノ改正ニハ米國ノ同意ヲ要スベキコト

ノ四項ヲ挙げ居レリ

新聞所報ニ依レバ右ニ対シ民主黨議員ノ間ニハ連盟参加ニ一步ヲ進メタルモノトシテ満足スルモノ多ク又嘗テ連盟ニ反対シタル政府派議員中ニモ賛成者アル模様ナルモ会期切迫セル今期議會中ニ採決スルコト不可能ナリトスル意見強ク結局外交委員會ハ其ノ審議ヲ來議會迄延長スベシト伝ヘラル、又新聞論調ハ一般ニ賛意ヲ表シ「ワールド」ハ余日尠キ今日提議セラレタルハ之ニ依リ本件ニ関スル輿論氣受ヲ探ランガ為ナリ、政府ノ態度ハ卑怯ナルモ此事ナキニ勝サル、「トリビューン」ハ米國ノ Conviction ハ政策及共和黨ノ政綱ニ一致スト論ジ且、「ポスト」ハ國民ニシテ國際紛議平和的解決ヲ可トスレバ連盟トノ關係ヲ考慮セズ賛成スベシト論ジ、「タイムズ」ハ提議ノ遲キニ失スル等政

九 日米仲裁裁判条約期限延長協約關係 三七八 三七九

府ノ行動ニ非議スベキ点多キモ政府ハ必然ノ運命ニ傾キタルハ喜ブベシトテ上院ノ早採決ヲ促セリ
在欧各大使ニ郵送セリ

三七八 四月四日 内田外務大臣ヨリ
在米國壇原大使宛

日米仲裁裁判条約更新方ニ関スル米國政府ノ
意向打診方訓令ノ件

条二機密第一四号

日米仲裁裁判条約更新方ニ関スル件

大正七年八月石井大使ト國務卿トノ間ニ調印ヲ了シタル日米仲裁裁判条約有効期間再延長ニ関スル協約ニ依リ同条約ハ本年八月二十四日失効スル次第ナル処米國政府ニ於テ本件条約ノ効力ヲ其儘更ニ延長セシムル希望ナルニ於テハ帝國政府モ之ニ応スルコト別段支障ナキ儀ト認メラルモ先以テ米國政府ハ果シテ従来通各國トノ仲裁裁判条約ノ効力ヲ更新セシメントスル方針ナリヤ將又米國トノ仲裁条約既ニ失効シ又ハセントシツアル仏國英國諸威等ノ諸國ニ對シテハ未タ米國政府ヨリ条約更新ノ希望申出テタルコトナキヤ予メ承知致度候ニ付テハ貴官ハ公然トナク責任國政府

シタル米國ノ國際司法裁判所加入ノ件ト關係アル儀ナルカ右加入ノ件ハ尚懸案ノ儘ニテ今後ノ見据モ付カヌ今日故本問題ニ関スル政府ノ方針モ決定セサル次第ナリトノ極メテ打明ケタル談話有之候ニ付本使ハ米國政府ノ事情ハ能ク諒解シタルモ本使一個ノ想像トシテハ帝國政府ニ於テハ御承知ノ通條約ノ締結改訂等ニ際シ國內法ノ關係上極密院トノ間ニ諮詢其ノ他ノ手續ノ問題アルヲ以テ本件条約更新ニ関シテモ可成前広ニ米國政府ノ意向ヲ承知シタキ所存ナルヘシト説明シタルニ同長官ハ本件ハ米國政府方針決定次第成ルヘク早ク我方ニ開談スル様能ク「テーク・ノート」シ置クヘシトテ特ニ其趣ヲ同長官ノ記錄ニ止メラレ候
右報告申進候也

追テ在米英國大使館ニ問合タルニ英米間ノ仲裁条約ニ関シテハ目下措置方考慮中ナル趣ニテ又米仏間ノ仲裁条約ハ國務省係官ノ言ニ依レハ本年二月満期失効シタル趣ニ有之候此段為念申添候

三八〇 六月二十六日(着) 在米國壇原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日米仲裁裁判条約更新ニ関シ米國政府英米仲裁裁

九 日米仲裁裁判条約期限延長協約關係 三八〇 三八一

及在貴地當該國使臣ニ就キ御取調ノ上可成速ニ御回報相成様致度此段申進候也

三七九 五月十日 在米國壇原大使ヨリ
内田外務大臣宛

日米仲裁裁判条約更新ニ関スル米國政府ノ意
向報告ノ件

大正十二年五月十日

在米特命全權大使 壇原正直(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

日米仲裁裁判条約更新方ニ関スル件

機密第四六号 (六月九日接受)

本件ニ関シ四月四日付条二機密送第一四号ヲ以テ御申越ノ趣敬承仍テ五月十日國務長官ノ定例会見ニ際シ本使ハ同長官ニ對シ米國ト各國トノ仲裁条約中ニハ近ク失効セントシツアルモノアリ本邦トノ条約モ其一ナル所米國政府トシテハ此等條約ハ從來ノ通其ノ効力ヲ更新セシメラルル御意向ナリヤ承知シタキ旨申出タルニ對シ同長官ハ右ハ米國政府トシテハ目下考慮中ニ属シ何等決定シ居ラサル次第ナルカ実ハ本問題ハ去ル三月議會閉會前大統領ヨリ上院ニ提議

判條約ノ方法援用方希望ノ件

第四〇五号

五月十日付機密第四六号往信ニ関シ客月満期トナレル英米仲裁裁判条約五ヶ年間延長ノ取極六月二十三日國務長官ト在米英大使トノ間ニ調印セラレ且之ト同時ニ米國上院ニテ米國ノ國際司法裁判所加入ヲ承認シタル場合ニハ兩國政府ニ於テ本件仲裁條約規定ノ紛争事項ヲ國際司法裁判所ノ議ニ付スベキ取極ヲ為スコトヲ考量スベシトノ意味ノ「ノート」ヲ交換シタリ
尚國務省係官ノ内話ニ拠レバ米國政府ハ日米仲裁條約更新ニ就テモ同様ノ方法ニ依リタキ希望ニテ近ク当方ヘ申出アル筈ナル趣

三八一 七月一日(着) 在米國壇原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日米仲裁裁判条約更新ニ関シ米國國務長官ヨリ

リ要望申越シノ件

第四一二号

往電第四〇五号ニ関シ

六月三十日付ヲ以テ國務長官ヨリ日米仲裁裁判条約更新方

四四一

ニ関シ米国上院カ国際司法裁判所加入ヲ承認シタル場合ニハ日本政府ニ於テモ本条約ニ掲ケタル紛争事項ヲ国際司法裁判所ニ付議スルコトト為ス為条約ヲ改訂シ又ハ別個ノ取極ヲ為スコトヲ考慮スルニ異議ナキ旨ノ保障ヲ得置キタク若シ更ニ双方カ右諒解ノ下ニ条約更新ヲ希望スル旨確言スルニ於テハ直ニ条約案ヲ作製シ米国側ヨリ送付スヘキ「ノート」ノ案ヲモ送付スヘキニ付其ノ際ニハ之ニ対スル日本側ノ回答案ヲ入手シタキ旨申越シタリ

右ニ関シ何分ノ儀至急御回訓ヲ請フ

尚前頭國務長官來信ハ郵送ス

三八二 七月三日 内田外務大臣ヨリ
在米國埴原大使宛(電報)

日米仲裁裁判条約ノ更新内容ニ関スル米國政
府ノ意向確認方訓令ノ件

第三五一号

貴電第四一二号ニ関シ

米國政府ハ仲裁裁判条約ノ更新ニ付テハ前例ノ如ク其延長期間ヲ五ヶ年トナス予定ナリヤ將又同条約規定ノ紛争事項ヲ国際司法裁判所ニ付議ス云々トハ同条約ニ掲ケタル紛争

事項ノ範圍ヲ拡張シ又ハ義務的裁判權ヲ認ムルニアラスンテ単ニ海牙常設仲裁裁判所ニ代フルニ國際司法裁判所ヲ以テセムトスルニ過ギサル意味ナリヤ本件考量上重要關係ヲ有スル次第ニ付右ニ関スル米國政府ノ意向先以テ御確メノ上何分ノ儀御回電アリタシ

三八三 七月八日(着) 在米國埴原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日米仲裁裁判条約ノ更新内容ニ対スル米國政
府ノ意向ニツキ回報ノ件

第四二七号

貴電第三五一号ニ関シ

延長期間ハ五ヶ年ナリ、又同条約規定ノ紛争事項ヲ國際司法裁判所ニ付議ス云々ハ同条約ニ掲ケタル紛争事項ノ範圍ヲ拡張シ又ハ義務的裁判權ヲ認ムルノ意ニアラスンテ単ニ海牙常設裁判所ニ代ハルニ國際司法裁判所ヲ以テセントスルニ過ギザル旨國務省ニ就キ確メタリ

三八四 七月十二日 内田外務大臣ヨリ
加藤内閣總理大臣宛

日米仲裁裁判条約更新ニ関スル米國政府ノ提

議ニツキ閣議議ノ件

条二機密第一〇二号

明治四十一年八月二十四日華盛頓ニ於テ批准交換ヲ了シタル日米仲裁裁判条約ハ大正七年八月二十三日華盛頓ニ於テ締結セラレタル同条約有効期間再延長ニ関スル協約ニ依リ本年八月二十四日失効スル次第ナルニ顧ミ曩ニ在米埴原大使ヲシテ米國政府ノ本件条約更新方ニ関スル意向夫レトナク取調シメ居タル処米國政府ハ本年六月三十日付ヲ以テ埴原大使ニ対シ日米仲裁裁判条約更新方ニ関シ米國上院カ國際司法裁判所加入ヲ承認シタル場合ニハ日本政府ニ於テモ日米仲裁裁判条約ニ掲ケタル紛争事項ヲ國際司法裁判所ニ付議スルコトト為ス為条約ヲ改訂シ又ハ別個ノ取極ヲ為スコトヲ考慮スルニ異議ナキ旨ノ保障ヲ得置キ度ク若シ更ニ双方カ右諒解ノ下ニ日米仲裁裁判条約更新ヲ希望スル旨確言スルニ於テハ直ニ条約案ヲ作製シ米國側ヨリ送付スヘキ公文案ヲモ送付スヘキニ付其ノ際ニハ此ニ対スル日本側ノ回答案ヲ入手シ度キ旨申越タリ右米國政府ノ提案ニ関シ更ニ埴原大使ヲシテ米國政府ニ確メシメタル処今回米國政府申出中同条約規定ノ紛争事項ヲ國際司法裁判所ニ付議ス云

云ハ同条約ニ掲ケタル紛争事項ノ範圍ヲ拡張シ又ハ義務的裁判權ヲ認ムルノ意ニ非スシテ単ニ海牙常設仲裁裁判所ニ代フルニ國際司法裁判所ヲ以テセントスルニ過ギサル旨並ニ延長期間ハ前例ノ通り五ヶ年ト為シタキ意向ナル趣同大使ヨリ回電アリタリ

案スルニ本件仲裁裁判条約ノ更新ハ条約本来ノ趣旨ニ鑑ミ日米親交ノ実ヲ明カニスル上ニ於テ裨益アルノミナラス今回ノ更新ハ從前ノ条約ニ対シ主義上何等變更ヲ加フルモノニモ非サルヲ以テ帝國政府ニ於テ右米國政府ノ申出ヲ承諾シ差支ナキ儀ト認メラル仍テ本件米國政府ノ提議ハ之ヲ承諾シ別案ノ通埴原大使ニ電訓スルコトト致度此段及請議候也

編註 別案ハ内田外務大臣宛在米國埴原大使宛電報第三八六号
ト同文ニツキ省略

三八五 七月二十一日(着) 在米國埴原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米仏仲裁裁判条約五ヶ年延長ノ取極調印ノ件

第四五〇号

本年二月満期トナリタル米仏仲裁裁判条約五ヶ年間延長ノ

取極國務長官ト在米仏国大使トノ間ニ調印セラレ同時ニ國際司法裁判所付議ニ関スル「ノート」(往電第四〇五号英米間ノ「ノート」ト同一内容)ヲ交換シタル旨七月十九日國務省ヨリ發表セラレタリ

三八六 七月二十一日 加藤内閣総理大臣ヨリ
内田外務大臣宛

日米仲裁裁判条約更新ニ関スル米國政府ノ提議ニツキ閣議請議承認ノ件

内閣外甲第五〇号

大正十二年七月二十一日

内閣総理大臣男爵 加藤友三郎(印)
外務大臣伯爵 内田康哉殿

指 令

大正十二年七月十二日条二機密第一〇二号

日米現行仲裁裁判条約更新方米國政府ノ提議ニ関スル件請議ノ通

三八七 七月二十一日 内田外務大臣ヨリ
在米國埴原大使宛(電報)

米國政府提議ニ基ク条約更新ニ異議ナキ旨回

答方訓令ノ件

付記 日米仲裁裁判条約更新ニ際シテノ米國ノ提議ニ関スル外務省調書

第三八六号

貴電第四一二号米國政府提議ハ帝國政府ニ於テ之ヲ承諾シ且之ニ基キ条約更新方異議ナキ旨米國政府ニ回答スルト同時ニ本件条約ハ從來通批准交換ノ手續ニ抛ルコトト致度旨申入レラレタシ

(付記)

日米仲裁裁判条約更新ニ際シテノ米國ノ提議ニ関スル外務省調書

日米仲裁裁判条約更新ニ際シ米國ノ國際司法裁判所加入ノ場合ニ対スル了解ニ関スル米國ノ提議

本年五月満期トナレル英米仲裁裁判条約五ヶ年間延長ノ取極六月二十三日國務長官ト在米英國大使トノ間ニ調印セラレ之ト同時ニ米國上院ニテ米國ノ國際司法裁判所加入ヲ承認シタル場合ニハ兩國政府ニ於テ本件仲裁裁判条約規定ノ紛争事項ヲ國際司法裁判所ノ議ニ付スヘキ取極ヲ為スコトヲ考量スヘシトノ「ノート」交換セラレタルカ次テ六月三十日付ヲ以テ米國國務長官ヨリ在米埴原大使ニ対シ日米仲

裁裁判条約更新方ニ関シ米國上院カ國際司法裁判所加入ヲ承認シタル場合ニハ日本政府ニ於テモ右条約ニ掲ケタル紛争事項ヲ國際司法裁判所ニ付議スルコトト為ス為条約ヲ改訂シ又ハ別個ノ取極ヲ為スコトヲ考慮スルニ異議ナキ旨ノ保障ヲ得置キ度若シ更ニ双方カ右諒解ノ下ニ条約更新ヲ希望スル旨確言スルニ於テハ直ニ条約案ヲ作製シ米國側ヨリ送付スヘキ「ノート」ノ案ヲモ送付スヘキニ付其ノ際ニハ之ニ対スル日本側ノ回答案ヲ入手シタキ旨申来リタリ

右米國ノ提議ハ現行日米仲裁裁判条約ト國際司法裁判所トノ間ニ關係ヲ有セシメントスルモノニシテ其ノ同条約ノ内容ニ及ホスヘキ影響ハ惟フニ左ノ諸点ナラム乎

一、現行日米仲裁裁判条約ハ法律問題又ハ兩締約國間ニ現存スル条約ノ解釈ニ関シ兩締約國間ニ起生シ外交上ノ手段ニ依リ処理スルコト能ハサル紛議ニシテ兩締約國ノ緊切ナル利益、独立若ハ名譽ニ関シ又ハ第三國ノ利益ニ關係ナキモノハ之ヲ千八百九十九年ノ条約ニ依リ海牙ニ設置セラレタル常設仲裁裁判所ニ付セラルヘキモノト定ムル処今回ノ米國提議ニ依レハ右紛議ハ常設國際司法裁判所ニ付セラルルコトト改メラルル次第ナリ即チ常設國際

司法裁判所規程第三十六条第一項ニ從ヒ日米間ニ関スル限り本件仲裁裁判条約ヲ以テ一般的ニ國際司法裁判所ノ管轄ヲ認ムルコトトナルモノナリ此ノ点ハ從來國際司法裁判所ノ管轄ヲ成ルヘク任意的ノモノトナシ置カムコトヲ希望シタル帝國ノ方針ニ例外ヲ認メムトスルモノニシテ重大ナル問題ナリトス

二、現行条約ハ其ノ第二条ニ於テ常設仲裁裁判所ニ訴フル各場合ニ於テ兩締約國ハ必ス先ツ其ノ係争事件ノ趣旨、仲裁裁判官ノ權限並仲裁裁判所ノ構成及手續ニ関シ定ムヘキ期限ヲ明瞭ニ確定シタル特別契約ヲ締結スヘキモノト定メ且右特別契約ハ文書ノ交換ニ依リ兩國政府ノ確認ヲ得タル場合ニ於テノミ拘束力ヲ有スヘキ旨ヲ定ム今若シ紛議カ國際司法裁判所ニ付託セラルルコトトナラハ國際司法裁判所ニ付テハ其ノ裁判官ノ權限等ハ同裁判所規程等ニ依リ既ニ明ニ定メラレ居ルニ依リ本条ニ依ル特別契約ヲ以テ定ムヘキ事項亦勢ヒ多少ノ變更ヲ受クルコトトナルヘキナリ或ハ又特別契約ノ必要著シク減少スル關係上特別契約ノ締結ヲ不用トスルノ議ヲ生セストモ限ラサル処若シ特別契約ノ締結ヲ認メサルカ如キコトトモナ

ラハ現行条約第二条ノ存在ニ依リ両締約国ニ認メラレタル紛争付託ニ関スル最終決定方ニ関スル考量ノ余地ヲ存セサルコトナリ之ヲ現行条約ニ比シ實際上著シキ変更ヲ来スモノト云ハサルヲ得ス

三八八 七月三十一日(着) 在米国埴原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日米仲裁裁判条約更新ノ取極案及ビノート案

ニツキ請訓ノ件

第四七〇号

貴電第三八六号ニ関シ御電訓ノ趣回答シタル処國務長官ヨリ七月二十七日付書面ヲ以テ日米仲裁裁判条約更新ノ取極案及米国側「ノート」案ヲ送り越セリ其更新取極案ト大正七年ノ協約正文トヲ比較スルニ前文ニ於テ

extended by the Agreement concluded between the two Governments on June 28, 1913. No次ニ and further extended by the Agreement concluded between the two Governments on August 23, 1918. ナル文句ヲ挿入シ have へ authorized へノ間ニ respectively ヲ挿入シ Viscount Kikujiro Ishii ヲ His Excellency, Masanao Hanihara, Robert Lansing ヲ Charles Evans Hughes ト

三九〇 八月二十四日(着) 在米国埴原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日米仲裁裁判条約更新協約調印ノ件

付記一 日米仲裁裁判条約ノ有効期間第三回延長ニ関スル協約
二 日米仲裁裁判条約ノ有効期間第三回延長ニ関スル協約付属交換公文

第五二〇号

八月二十三日午前十一時日米仲裁裁判条約更新協約調印済ミ、同時ニ「ノート」ノ交換ヲ了セリ右調印ノ時日及効果「ノート」ノ内容概略ハ本日國務省ヨリ新聞ニ発表ノ答(付記一)

日米仲裁裁判条約(明治四十一年五月五日調印)ノ有効期間第三回延長ニ関スル協約

日本国皇帝陛下ノ政府及亜米利加合衆国政府ハ明治四十一年五月五日両国政府間ニ締結セラレ大正二年六月二十八日両国政府間ニ締結セラレタル協約ニ依リ延長セラレ次テ大正七年八月二十三日両国政府間ニ締結セラレタル協約ニ依リ更ニ延長セラレタル仲裁裁判条約ノ有効期間ヲ尚五年間延長セムコトヲ希望シ各下名即チ亜米利加合衆国駐劄特命

九 日米仲裁裁判条約期限延長協約關係 三九〇

改メ第一条 August 24, 1913. No次ニ and was extended by the agreement between them of August 23, 1918 for and further period of five years from August 24, 1918 ナル文句ヲ追加シ同条最後ノ1918ヲ1923ト改メ協約作製日ヲ「ブランク」トシタル外全然内容同一ナリ右調印差支ナキヤ尚米国側「ノート」案ハ別電第四七一号ノ一ノ通ナル処我方回答「ノート」案ハ別電第四七一号ノ二ノ通トシ然ルヘキヤ併セ御詮議ノ上至急御電訓相成リタシ

編註 別電第四七一号ハ一及二トモニ協約付属交換公文ト殆ンド同文ニツキ省略

三八九 八月十一日 内田外務大臣ヨリ
在米国埴原大使宛(電報)

日米仲裁裁判条約更新協約ニ調印方訓令ノ件

第四二二号

貴電第四七〇号ニ関シ

貴官ハ日米仲裁裁判条約更新協約ニ調印セラレタシ將又米国側「ノート」ニ対シ我方ヨリ交付スヘキ「ノート」ハ貴電第四七一号ノ二ノ通ト致シ差支ナシ

編註 在米国埴原大使宛内田外務大臣宛電報第四七〇号編註参照

全權大使埴原正直及合衆国國務卿「チャールス・エヴァンス・ヒューズ」ニ本協約ヲ締結スルコトヲ委任セリ

第一条

日本国皇帝陛下ノ政府及亜米利加合衆国政府間ニ於ケル明治四十一年五月五日ノ仲裁裁判条約ハ其ノ有効期間カ同条約第三条ニ依リ批准書交換ノ日ヨリ五年間ト定メラレ該期間ハ大正二年六月二十八日ノ両国政府間ノ協約ニ依リ同年八月二十四日ヨリ五年間延長セラレ次テ大正七年八月二十三日ノ両国政府間ノ協約ニ依リ同年八月二十四日ヨリ更ニ五年間延長セラレタルモノナル所茲ニ大正十二年八月二十四日ヨリ更ニ五年間延長セラレ其ノ間引続キ有効ノモノトス

第二条

本協約ハ日本国皇帝陛下ニ由リ及元老院ノ協賛ヲ經テ亜米利加合衆国大統領ニ由リ批准セラルヘク批准書交換ノ日ヨリ其ノ効力ヲ有ス批准書交換ハ成ルヘク速ニ華盛頓ニ於テ之ヲ行フヘシ
大正十二年八月二十三日華盛頓ニ於テ英文ニテ本書二通ヲ作ル

植 原 正 直 (印)

チャールス・エヴァンズ・ヒューズ (印)

Agreement extending

the

Duration of the Arbitration Convention

of May 5, 1908,

between

Japan and the United States of America.

The Government of His Majesty the Emperor of Japan and the Government of the United States of America, desiring to extend for another five years the period during which the Arbitration Convention concluded between them on May 5, 1908, and extended by the Agreement concluded between the two Governments on June 28, 1913, and further extended by the Agreement concluded between the two Governments on August 23, 1918, shall remain in force, have respectively authorized the undersigned, to wit: His Excellency Masanao Hanihara, His Majesty's Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary at Washington, and Charles Evans Hughes, Secretary of State of the United

States, to conclude the following Agreement:

Article I.

The Convention of Arbitration of May 5, 1908, between the Government of His Majesty the Emperor of Japan and the Government of the United States of America, the duration of which by Article III thereof was fixed at a period of five years from the date of the exchange of ratifications, which period, by the Agreement of June 28, 1913, between the two Governments was extended for five years from August 24, 1913, and was extended by the Agreement between them of August 23, 1918, for the further period of five years from August 24, 1918, is hereby extended and continued in force for the further period of five years from August 24, 1923.

Article II.

The present Agreement shall be ratified by His Majesty the Emperor of Japan and by the President of the United States of America, by and with the advice and consent of the Senate thereof, and it shall become effective upon the date of the exchange of ratifications, which shall take place at Washington as soon as pos-

sible.

Done in duplicate in the English language at Washington this twenty-third day of the eighth month of the twelfth year of Taisho corresponding to the twenty-third day of August one thousand nine hundred and twenty-three.

[L. S.] M. Hanihara.

[L. S.] Charles Evans Hughes.

(付記1)

日米仲裁裁判条約(明治四十一年)
(五月五日調印)ノ有効期間第三回延長ニ関

スル協約付属交換公文

国務卿来翰

以書翰致啓上候陳者千九百八年五月五日亜米利加合衆国ト日本国皇帝陛下ノ政府トノ間ニ締結セラレ且時時更新セラレタル仲裁裁判条約ノ更新方ニ関スル協約ニ本日署名スルニ当リ本官ハ曩ニ非公式ノ協議ヲ遂ケタル趣旨ニ從ヒ左ノ了解ヲ記述スルノ光栄ヲ有シ候本官ハ貴官カ貴国政府ノ為ニ之ヲ確認セラレムコトヲ希望致候

本年二月二十四日合衆国大統領ハ常設国際司法裁判所ヲ海牙ニ設置シタル千九百二十年十二月十六日ノ議定書ニ対ス

ル合衆国ノ加入ヲ一定ノ条件ノ下ニ協賛セムコトヲ元老院ニ提案致候元老院ハ本年十二月迄其ノ通常会ヲ召集セサルニ依リ右提案ニ関スル措置ハ当然遅延可致候元老院ニシテ右提案ニ協賛ヲ与ヘタル場合ニハ日本国皇帝陛下ノ政府ニ於テハ今回更新スル仲裁裁判条約ニ掲ケタル紛議ヲ常設国際司法裁判所ニ付託スルコトヲ定ムル為該条約ヲ改訂シ又ハ別箇ノ協約ヲ締結スルコトヲ考慮スルニ異議ナカルヘシト本官ハ了解致候

本官ハ玆ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百二十三年八月二十三日

華盛頓国務省ニ於テ

チャールス・イー・ヒューズ

日本国大使 植原正直閣下

Exchange of Notes

relating

to the Agreement extending the

Duration of the Arbitration

Convention of May 5, 1908,

between

Japan and the United States of America.

From the Secretary of State to Mr. Hanihara.

Department of State

Washington

August 23, 1923.

Excellency:

In connection with the signing to-day of an agreement for the renewal of the Convention of Arbitration concluded between the United States and the Government of His Majesty the Emperor of Japan, May 5, 1908, and renewed from time to time, I have the honor, in pursuance of our informal conversations, to state the following understanding which I shall be glad to have you confirm on behalf of your Government.

On February 24 last the President proposed to the Senate that it consent under certain stated conditions to the adhesion by the United States to the Protocol of December 16, 1920, under which the Permanent Court of International Justice has been created at the Hague. As the Senate does not convene in its regular session until December next, action upon this proposal will necessarily be delayed. In the event that the Senate

gives its assent to the proposal, I understand that the Government of His Majesty the Emperor of Japan will not be averse to considering a modification of the Convention of Arbitration which we are renewing, or the making of a separate agreement, providing for the reference of disputes mentioned in the Convention to the Permanent Court of International Justice.

Accept, Excellency, the renewed assurance of my highest consideration.

(Signed) Charles E. Hughes.

His Excellency

Mr. Masanao Hanihara,

Japanese Ambassador.

埴原大使復輪

以書翰致啓上候陳者本官ハ千九百八年五月五日日本國ト垂米利加合衆國ノ間ニ締結セラレ本年八月二十四日迄其ノ効力ヲ延長セラレタル仲裁裁判条約ノ更新方ニ関シ曩ニ非公式ノ協議ニ於テ得ラレタル貴官ノ了解ヲ本官ニ通知セラルル本日付貴翰正ニ領収致候

玆ニ本國政府ノ訓令ニ依リ左ノ文言ヲ以テ記述セラレタル貴官ノ了解ヲ確認スルヲ得ルハ本官ノ欣幸トスル処ニ有之

候

August 23, 1923.

I have the honor to acknowledge the receipt of your note of to-day's date, communicating to me your understanding reached in our informal conversations in connection with the renewal of the Convention of Arbitration concluded between Japan and the United States, May 5, 1908, and extended in its operation until August 24 of this year.

I am happy to be able to confirm to you, under instructions from my Government, your understanding as set forth in the following terms:

"On February 24 last, the President proposed to the Senate that it consent under certain stated conditions to the adhesion by the United States to the Protocol of December 16, 1920, under which the Permanent Court of International Justice has been created at the Hague. As the Senate does not convene in its regular session until December next, action upon this proposal will necessarily be delayed. In the event that the Senate gives its assent to the proposal, I understand that the Government of His Majesty the Emperor of Japan will not be averse to considering a mod-

本年二月二十四日合衆國大統領ハ常設國際司法裁判所ヲ海牙ニ設置シタル千九百二十年十二月十六日ノ議定書ニ對スル合衆國ノ加入ヲ一定ノ條件ノ下ニ協賛セムコトヲ元老院ニ提案致候元老院ハ本年十二月迄其ノ通常會ヲ召集セサルニ依リ右提案ニ關スル措置ハ当然遲延可致候元老院ニシテ右提案ニ協賛ヲ与ヘタル場合ニハ日本國皇帝陛下ノ政府ニ於テハ今回更新スル仲裁裁判条約ニ掲ケタル紛議ヲ常設國際司法裁判所ニ付託スルコトヲ定ムル為該条約ヲ改訂シ又ハ別箇ノ協約ヲ締結スルコトヲ考慮スルニ異議ナカルヘシト本官ハ了解致候
本官ハ玆ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具
千九百二十三年八月二十三日

華盛頓日本帝國大使館ニ於テ

埴原 正直

國務卿チャールス・イー・ヒューズ閣下

From Mr. Hanihara to the Secretary of State.

Japanese Embassy

Washington

ification of the Convention of Arbitration which we are renewing, or the making of a separate agreement, providing for the reference of disputes mentioned in the Convention to the Permanent Court of International Justice."

Accept, Sir, the renewed assurances of my highest consideration.

(Signed) M. Hanihara.

Honorable Charles E. Hughes,

Secretary of State.

三九一 十二月三十日 (着) 在米國壇原大使ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

米國上院日米仲裁裁判条約更新ノ協約承認ノ件

付記一 大正十三年二月二日清浦内閣総理大臣ヨリ松井

外務大臣宛通牒内閣外甲第七号

日米仲裁裁判条約ノ有効期間延長ニ関スル協約批准裁可ノ件

二 在米國壇原大使発松井外務大臣宛大正十三年四月

月二十七日着電報第三四三号

右更新協約ノ批准交換ヲ了セル旨報告ノ件

第八六〇号

貴電第七〇一号ニ関シ

國務長官ヨリ十二月二十四日付書翰ヲ以テ去ル十八日上院ハ更新ノ協約ニ承諾ヲ与ヘタルヲ以テ米國政府トシテハ何時ニテモ批准交換ヲ行フノ意アル旨申越セリ御批准書当方ヘ到着ノ日取分明次第御電報アリ度シ

(付記一)

大正十三年二月二日清浦内閣総理大臣ヨリ松井外務大臣宛通

牒内閣外甲第七号

日米仲裁裁判条約ノ有効期間延長ニ関スル協約批准裁可ノ件

内閣外甲第七号

大正十三年二月二日

内閣総理大臣子爵 清浦奎吉 (印)

外務大臣男爵 松井慶四郎殿

通牒

日米仲裁裁判条約ノ有効期間第三回延長ニ関スル協約御批准ノ件上奏ノ通裁可ヲ経タリ

(付記二)

在米國壇原大使発松井外務大臣宛大正十三年四月二十七日着

電報第三四三号

日米仲裁裁判条約更新協約ノ批准交換ヲ了セル旨報告ノ件

第三四三号

(省略)

往電第三三八号ニ関シ予定通四月二十六日正午國務長官トノ間ニ更新協約ノ批准交換ヲ了セリ